

平成20年度事業報告・収支計算書

特定非営利活動法人ACTION

海外事業

ジャイラホーム支援事業

実施場所：サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町

実施期間：平成 20 年 1 月～同年 12 月

ジャイラホームはフィリピンの NGO によって設立され、孤児、虐待、育児放棄、貧困など様々な背景によって、親元を離れた子どもたちが生活する児童養護施設です。ACTION 設立時の 1994 年から継続して支援を実施しています。施設運営の自立・子どもたちの生活環境の向上等を目的とする本件では、本年度は下記 4 つの活動を実施しました。

●児童養護施設の自立的支援にむけた農業技術向上支援

本件はジャイラホーム内の空地を菜園として開発することで収穫の販売による同施設の自給自足体制の確立、有機栽培による子どもたちへの安全な食の提供を目的としたものです。通年の活動として本格的に活動を開始してから 2 年目に当たる本年度は、収穫の安定と、菜園の独立採算化を目標として、苗床の作製、野菜の植え付け、栽培、市場や施設周辺での販売を行いました。また、千葉県で農園を経営されている柴田様から資金提供と技術指導を頂きました。

昨年度順調に収穫することができたナスを中心にオクラ、トマト、カボチャ、チンゲン菜、トウモロコシ等を栽培し、施設の子どもたちの食用として提供、余剰分は市場等で販売しました。昨年度に比べ全体での収穫量は増加し子どもたちに野菜を提供できる機会が増え、余剰分の販売売上も年度後半の半年間で 1 万ペソ（約 2 万円）を超える成果を上げることができました。しかし、天候の影響や現地側の技術不足により、安定した収穫を継続することができず、独立採算の達成には至りませんでした。

来年度は経験豊かな現地農業スタッフを雇用し、作業員も増員することで、利用可能な土地 1.5 ヘクタール全ての開墾を実施、それにより自給自足体制の確立を目指します。また、食育の一貫として、施設の子どもたちによる家庭菜園も設置する予定です。



ナスの収穫を手伝う孤児院の子ども



収穫した野菜に満面の笑みの子ども

●業務用クリーニング店の開設・運営

本件はジャイラホーム内に設置したクリーニング店の運営により、外部からの寄付に頼らない施設運営の資金的自立支援と、施設の卒業生への職の提供を目的としたものです。クリーニングの和光の社長である佐藤様からの資金、技術的今天を受け、本年度2月にジャイラホーム内にクリーニング工場「Brighter Wash」をオープン。3月からは近隣のホテルから注文が入るようになり、フィリピンの夏休に当たる3月末から5月末までは順調に注文が入り利益を出すことができました。しかし、6月以降雨季に入るとホテルからの注文が減り、赤字経営となりました。対策として11月には近くの市場に、家庭用の洗濯受取所を設置し、一般家庭へマーケットを拡大。現在は固定客もつくようになりました。

しかしこの雨季の業績不振が要因となり、目標としていたジャイラホームへの資金寄付を行うことはできませんでした。一方現在までに工場長を含め当施設の卒業生5名が本クリーニング店で働く機会を得ることができました。来年度は大口の顧客を拡大、外部のクリーニング受注会社と提携し、売上の増加を目指します。



3月にオープンしたクリーニング工場



クリーニング工場内部



マーケットにオープンした選択受取書

●空手を通じた青少年育成プログラム

本プロジェクトは子どもたちが空手の修養を通して強い意思や規律、礼儀を身につけて社会にでていけることを目的とした青少年教育です。昨年度に引き続きジャイラホーム内に設置された道場で週5日稽古が行われ、施設子どもと地域の子どもが共に稽古に励んでいます。フィリピン各地で実施されているトーナメントで入賞者を多数出すことができ、10月に行われた全日本空手道選手権に施設の子ども1名が招待選手として出場することができました。空手の稽古や大会を通して子どもたちは自分に自信や誇りを持つようになり、以前に比べて日常生活でも忍耐強さが見られるようになりました。



12月に行われた大会で受賞した子どもたち

●パキユット基金

ジャイラホームの資金不足は深刻で、スタッフの給与の未払いが頻発しています。そのため、スタッフが頻繁に入れ替わり、子どもたちの生活にも悪影響を与えています。そこでス

スタッフの給与の半額を支援することでスタッフを支え、子どもたちが健全に成長できる環境をたもつことを目的として、支援者を募りパキュット基金が設立されました。

本基金は年間 6 千円の会費制度をとり、ここから上記のスタッフ人件費のサポートを実施しています。4 年目を迎えた本年度は継続会員 52 名、新規 20 名の計 72 名に支援を頂き、施設のスタッフ 6 名の給与に充当しました。しかしパキュット会員からの会費だけではスタッフの給与の半額分には及ばず、不足分は ACTION 本体の自己資金を持ち出しての実施となりました。来年度は確実に資金を確保するために、パキュット会員制を廃止し、ACTION 会費の中に統合するという形でスタッフの支援を実施する予定です。



ジャイラホームの子ども



ハウスマザーと子どもたち

ニニョスパグアサセンター支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市オールドカバラン町

実施期間：平成 20 年 5 月～同年 12 月

ニニョスパグアサセンターはフィリピンの NGO によって運営される、主に盲・聾啞者を対象とした自立支援施設です。当会は 2000 年より活動の支援を行ってまいりました。

本年度は、施設との話し合いの結果、車椅子の寄贈と、手話講師への給与支援を実施致しました。

●手話講師給与支援プロジェクト

同施設では、主に盲・聾啞者を対象に自立支援活動を行っていますが、他にも、障がいを持つ子ども達のための学校の開設や、手術を受けられない子どもや家族のための医療支援

事業を実施しています。当会でも、施設の自立運営のためのマンゴージャム作成支援や、医療支援事業支援を行ってまいりましたが、本年度は施設との話し合いの結果、車椅子の寄贈と、手話講師の給与支援を実施致しました。

フィリピンでは、同様の活動を実施している施設が多くないため、全国からその活動が要望され、本年度より、ミンドロ島での活動も始まりました。その結果、支援を求める声が多く施設に寄せられるようになりました。そこで、寄せられた声の中でも必要性の高いと考えられた車椅子を、施設の希望により、当会から2台寄贈致しました。

また、他の施設同様、運営のための資金は十分ではないために、スタッフの給与が滞ることが、よくあるそうです。そこで、施設との話し合いの結果、子ども達に手話や、手話を通して勉強を教えている自身も聾啞者である講師の給与支援を実施致しました。ただし、当会からの全額支援は困難であったため、毎月約半額の金額を、当会で支援致しました。



ニニヨスバグアセンターの子どもたち



みんなでキャンドルを作る様子

ストリートチルドレン支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市及び周辺地域

実施期間：平成20年1月～同年12月

ストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っているフィリピンのNGO タタッグ(Tayo Ang Tinig At Gabay = 私達自身が声であり道である)と提携して実施したものです。活動4年目になった本年は下記の2つの活動を実施しました。

●奨学生支援プロジェクト

本プロジェクトは、経済的な理由で就学が困難な貧困地域の児童への就学支援を行うもので、本年で4年目の実施となりました。前年度までは、今井記念海外協力基金より助成金をいただきまして、毎年約500名の児童に対し

て、入学費用支援、学用品・制服の支給を実施いたしました。支援終了となった本年度は、前年度より募集いたしました、日本で不要になった制服や学用品を配布致しました。また、3年間の活動により、奨学生が暮らす各地域に母親のグループができ、活動も活発になり、自立に向けての資金運営も少しずつ前進しています。ところが、まだ十分で

はないため、タタッグと相談をし、400名児童に対し、学用品を購入し配布致しました。また、前年度に引き続き、奨学生と母親グループの活動のモニタリングを実施致しました。今後も自立的な活動を目指していくために、母親たちのグループの資金運営力強化、日本からの学用品募集システム強化が課題となります。

●コミュニティ改善プロジェクト

本プロジェクトは、タタッグが支援するオロンガポ市内及び周辺地域から要請を受けた小規模プロジェクトへの支援を行うものです。3年目の本年は下記の3ヶ所での活動を行いました。

・簡易学習教室建設

実施場所：オロンガポ市サンタリータ町

実施期間：平成20年3月

タタッグでは、現在4地域にてECCD(Early Child Care and Development =就学前の子ども達のための無料の学習教室)を実施しています。貧困家庭が多く暮らす当地域では、私立や政府が運営する幼稚園があるものの、月謝がかかるために、通うことのできない子どもが多くいました。そこで、以前より簡単な学ぶ場を提供していた地域のメンバーの敷地内に、当会のワークキャンプにて、簡易学習教室を建設致しました。土地を平らに均していくところから始め、3週間の作業を通し、約30人の子ども達が一度に学べる教室が完成しました。無料で実施しているこの教室には多くの子どもが入学し、現在は午前と午後の2つの教室に分け、全部で50名の子どもが学習しています。

また、教室の設置が地域内の関係強化にもつながっています。母親たちが協力して制服を準備したり、月に2度昼食を配布したりと、様々な活動が活発に行われ、地域内で教育に対する関心が高まっています。

サンタリータの教室で楽しく授業をする生徒たち

・簡易学習教室補修作業

実施場所：オロンガポ市カラックラン町

実施期間：平成20年8月

当地域では、以前より2つの教室を運営していましたが、1つは現在運営を休止しています。今回作業に当たった教室は、以前は米袋や布を壁として利用した簡易な教室のため、生徒の集中力は散漫しがちで、また雨の影響も大きく受けました。そこで、セメント作りの教室の建設を始めましたが、予算の関係上、その作業は止まりがちでした。そこで、特定非営利活動法人ブレンヒューマニティー協力の元、高校生18名が地元ボランティアと協力し、ペンキ塗り等の補修作業を実施しました。壁全体を黄色に塗り、外観にも様々なデザインを施すことで、子ども達の学習に対する意欲の向上を目指しました。また、学習用のテーブルや黒板の制作も実施致しました。

カラックランの教室での授業風景

・集会所設置

実施場所：バタアン州ティーポ

実施期間：平成20年9月

タタッグでは、現在オロンガポ市周辺の路上を含めた15の地域で活動をしています。その一つである当地域には、87名の奨学生がおり、48名の母親が2000年より活動しています。ところが、定期的にミーティングを行うためのスペースがなく、毎月のミーティング場所は、メンバーの家で比較的空間のある場所を回っていました。そのため、どこで行うかわからない、雨が降ると中止せざるをえないといった理由から、スムーズにミーティングを行うことができませんでした。そこで、当地域の今後の活動の発展を目指し、当会のワークキャンプにて集会所の設置作業を実施しました。当地域の役場に土地を提供していただき、役場のすぐ裏に、2~30名がミーティングできる屋根のついた集会所が完成しました。完成後は、ばらつきがあったミーティングへの出席率も改善され、作業に参加した日本人ボランティアの意思を引き継ぎ、地元のお母さん達が建物の管理をし、活発に活動しています。

ティーポにある集会所の様子

国際ボランティア体験事業

